

# ちょっと読んでみませんか（令和五年秋季彼岸）

## 第69話『柔和忍辱の鎧』〈本源寺副住職 本間健司〉

本源寺の本山である、北山の重須おもす本門寺（正式名は「富士山法華本門寺根源」）では、昨年からは一般の子供たちを集って『少年少女 おもす道場』という修行体験を行っています。今年には新型コロナウイルスが五類になったこともあり、一泊二日のスケジュールで二十三名が参加して実施されました。

“修行”といっても決して厳しいことをするわけではなく、お寺での作法や「心を養う」ことを分かりやすく学び、夜には皆で食事やレクリエーションをしたりと、子供たちが楽しく学べる場を提供できることを心掛けています。

さて、その「心を養う」プログラムとして、今年には『日常の五心』というテーマを掲げました。次の五つの心掛けです。

- ① 精進（しょうじん）|| 一心に物事に取り組むこと
- ② 持戒（じかい）|| 約束やルールを守ること
- ③ 禅定（ぜんじょう）|| 焦らず落ち着いて取り組むこと
- ④ 忍辱（にんにく）|| 目標に向かって辛いことも耐えること
- ⑤ 感謝（かんしゃ）|| 自分が多くの人たちに支えられていることに気付くこと

それぞれの項目ごとに一人のお上人が担当して三十分位の持ち時間で伝えていくのですが、私は「④忍辱」の担当者になりました。担当時間は二日目の朝勤の後ということで、4時半起床でまだまだ眠い子供たちに何とか興味を持ってもらおうと工夫を凝らしましたが……。少しでも伝わっていることを願うばかりです。

皆さんのご家庭でもお子さんやお孫さんに伝えて頂けたらと思います、その内容について触れてみたいと思います。

まず、「忍辱（にんにく）」について説かれた『法華経』第十章の法師品（ほっしほん）の経文についてお話ししました。（お経文を挙げることは必須だったので）

だいじひいしつ にゅうわにんにくえ しよほうくういぎ しょいせつぽう  
大慈悲為室 柔和忍辱衣 諸法空為座 處此為說法

【読み方】 大慈悲を室(しつ)となし 柔和忍辱を衣(ころも)とし 諸法の空を座(ざ)となし  
これに処して ために法を説け。

【解説】 人と接する時は、相手の心が楽になるような言葉をかけ、苦しみに寄り添う想いや  
りが大切です。辛いことがあったとしても穏やかな心を失わず、怒りの心を抑える習慣を持  
ちましょう。自分の心掛け次第で状況は良い方にも悪い方にも変化していくものなのです

特に『柔和忍辱(にゆうわにんにく)』という箇所には鉛筆でチェックを入れてもらい、  
この言葉だけでも覚えておいて下さいね、と伝えました。そして、相手が子供ということ  
でとても大切なことも一つ付け加えました。

それは、「忍辱」というのは、あくまで自分が立てた目標や成し遂げたいことの途中に  
ある障害(自分の思い通りにならないこと)に耐えることであって、決してイジメや虐待  
を耐えてはいけない、すぐに助けを求めて下さい、ということなのです。

子供はもともと弱い立場で、「ツライ」という声を上げにくいので、大人としてこの点  
を外してはならないと感じました。

次に、日蓮聖人の『開目抄(かいもくしょう)』のお言葉についても取り上げました。

にぢれん ほげきょう ちげ てんだいでんきょう せんまん いちぶん およ こと

日蓮が法華經の智解は 天台伝教には千万が一分も及ぶ事なけれども 難を忍び慈悲す

こと

ぐれたる事をそれをもいだきぬへし

【解説】 日蓮聖人は、天台大師・伝教大師という有名なお坊さんたちに学識は劣っているか  
も知れないけれども、決して負けないくらい、多くの苦しみに耐え人々の幸せを願い生きてき  
たという深い自信を持っていました。

ここでは、「深い自信」という言葉にチェックを入れてもらいました。そして、「目標や  
使命のために辛いことを耐えて努力することは、他人から認められて有名になるとか褒め  
られるとかに左右されない本物の自信を作ってくれるんだよ」と伝えました。

さて、『おもしろ道場』では取り上げませんでしたが、「忍辱(耐え忍ぶ)」ということにつ  
いて日蓮聖人がとても大切にしていた経文がありました。それは、『法華經』第十三章の  
勸持品(かんじほん)に説かれる「二十行の偈(げ)」と呼ばれるものです。

次は、そのうちの二行です。

がとうきようしんがう  
**我等敬信仏** とうじゃくにんたにくがい **當著忍辱鎧** われら仏を敬い信ずるゆえに まさに「忍辱の鎧(よろい)」を着すべし

ねんぶつ(う)ちよこ  
**念仏告勅故** かいとうにんぜじ **皆當忍是事** 仏から引き継いだ約束のため これらの難事は忍びましよう

権力者に逆らってまでも自分の信念を貫き続けた日蓮聖人は、度重なる迫害に遭ったため、土地や金品など身を護る「モノ」はほとんど持ち合わせていませんでした。ただ、何があっても耐え忍んできたという「自信・覚悟」、つまり誰からも決して壊されることのない「忍辱の鎧(よろい)」で自らを強く護り続けたのです。

ただ、私たち凡人には、「頑丈な鎧(よろい)」となるくらい強い忍辱心を持つのはちよつと難しいかもしれません。そこで、「おもす道場」で子供たちにチェックを入れてもらった『柔和忍辱(にゆうわにんにく)の心掛け』「辛い事や思い通りにならない事があつたとしても穏やかな心を失わず、怒りの心を抑える習慣から始めてみてはいかがでしょうか。」

日々実践していくことで「静かな自信」となり、鎧のように自分の身心を守り、事態を良い方向へと導いてくれることでしょう。

揺らいでしまいそうな時は、南無妙法蓮華経と唱え、誓いを新たにしながら…

合掌 **南無妙法蓮華経**